



# 2019

---

インベスコ ESG投資  
スチュワードシップ・レポート



# 本リポートでは、過去1年間のESG投資に関する当社の重要な取り組みについてご報告します。

## 04

### CEOメッセージ



## 06

### インベスコのESG理念とアプローチ

私たちは、受託者責任と統合的な方法でESG原則を採用し、それを実践することにより、この分野で信頼されるパートナーとしてお客様にサービスを提供します。

- 2.1 PRIへのコミットメント
- 2.2 ESGへの取り組み
- 2.3 社内体制と外部リソース
  - グローバルESGチームの説明
  - ガバナンス
  - ESGデータプロバイダー

## 10

### 各資産クラスにおけるESG・インテグレーションの進展

運用者がポートフォリオの意思決定に関する裁量を維持しながら、グローバルESGチームが世界にまたがり、統一されたサポートと分析を提供しています。

- 3.1 株式
- 3.2 債券
- 3.3 実物資産

# 14

## 現実世界で結果を出すためのアクティブオーナーシップ

私たちは、インベスコのグループ力を活用し、投資先企業が持続可能性に向き合う行動を強化することを促しています。

- 4.1 ケーススタディ
- 4.2 分散型の議決権行使

# 22

## インベスコのESG商品力

当社は、ESG戦略やその基準をさまざまな資産クラスや投資商品に幅広く反映しています。

- 5.1 ESG商品のローンチ

# 26

## 気候変動とSDGs

私たちは、気候変動があらゆる産業や資産クラスにどう影響するかに関心を持っています。インベスコは、将来の世代のために持続可能な環境を確保することが私たちの責務であると認識しています。

- 6.1 気候変動
- 6.2 持続可能な開発目標 (SDGs)

# 30

## ソート・リーダーシップ

# 32

## 32年間の歩み

# 34

## 各種イニシアチブへの参加

私たちは、さまざまな業界団体に単に参加だけでなく、いくつかの団体においては、積極的なメンバーとして役割を果たし、各団体の支援者としても活動しています。

# CEOメッセージ



## 投資家の皆さまへ

インベスコは、30年以上にわたり、ビジネスのあらゆる分野において ESG（環境、社会、ガバナンス）の実践を積極的に奨励し、ESG投資にコミットしてきました。本レポートでは、過去1年間のESG投資に関する当社の重要な取り組みについてご報告します。



ESGは、インベスコが掲げる会社のパーパス（存在意義）である「素晴らしい投資体験を通じて、人々の人生をより豊かにする」ための、有用で戦略的な差別化要素であると考えています。お客さま、株主、従業員、地域社会の皆さまに正しい行動をしていただくために、私たちはESG活動を企業横断的に取り入れています。私たちの革新的な戦略の深さが、お客さまに持続可能で長期的なパフォーマンスを提供する機会となり、人々の人生がより豊かになることを達成するという目的を実現することに貢献します。

インベスコは、アドボカシー（主張・発言）、リーダーシップ、イノベーション、信頼性を通じて、ESGへのコミットメントを強化し続けています。当社が責任投資に注力した結果が以下の通りです。:

- 責任投資原則（PRI）はインベスコに、3年連続で「戦略とガバナンス」項目においてA+の評価を与えました。
- MSCIはインベスコのESG格付けをBBBからAIに格上げしました。
- インベスコは気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の正式サポーターになりました。



さらに、2019年9月にはCathrine De Coninck-LopezがインベスコにおけるESGのグローバル・ヘッドに就任しました。Cathrineは、運用部門や営業、エンゲージメント、商品開発等にまたがるESGのベストプラクティスを用いて、世界中のチームや同僚と活動しています。

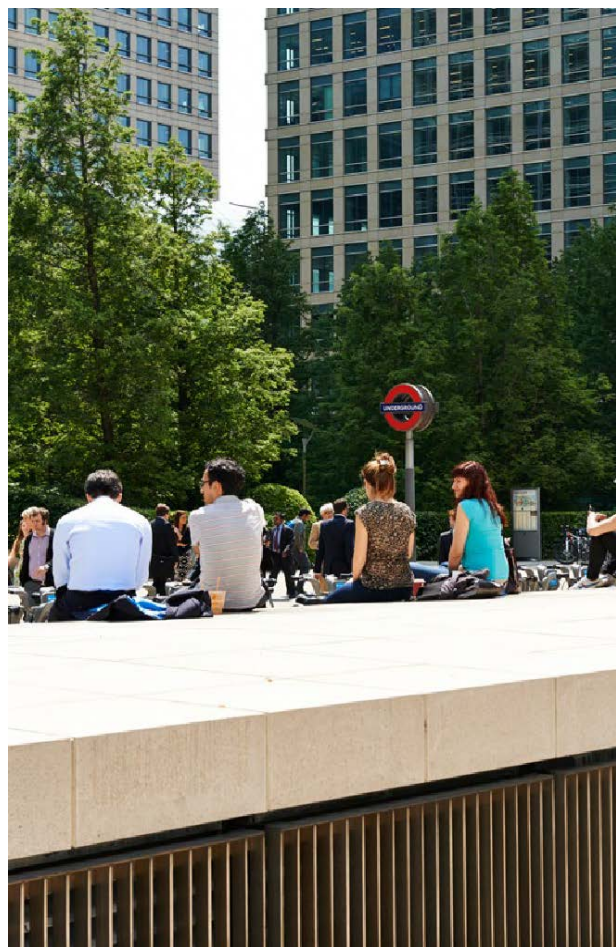
私自身、個人的にもグローバル・コーポレート・レスポンスブル・コミティ（CRC）の委員長として、サステナビリティの実践とESG/スチュワードシップ活動にフォーカスしています。CRCは、アドボカシーやポリシー、コミュニティ向け活動などを調整するため、世界のスチュワードシップリーダーをサポートしています。

本レポートでは、私たちのESGへのコミットメントをご紹介します。グローバルに統合されたアプローチを通じてお客さまのニーズにお応えしている私たちの活動について、より多く理解していただけると幸いです。

**マーティン・L・フラナガン**  
インベスコ プレジデント兼CEO

格付け、ランキング、または受賞に関する引用は、運用成果を保証するものではなく、また、その時点でのものであり、時間の経過とともに変化します。

# インベスコの ESG理念と アプローチ



## 2.1 責任投資原則（PRI）への コミットメント

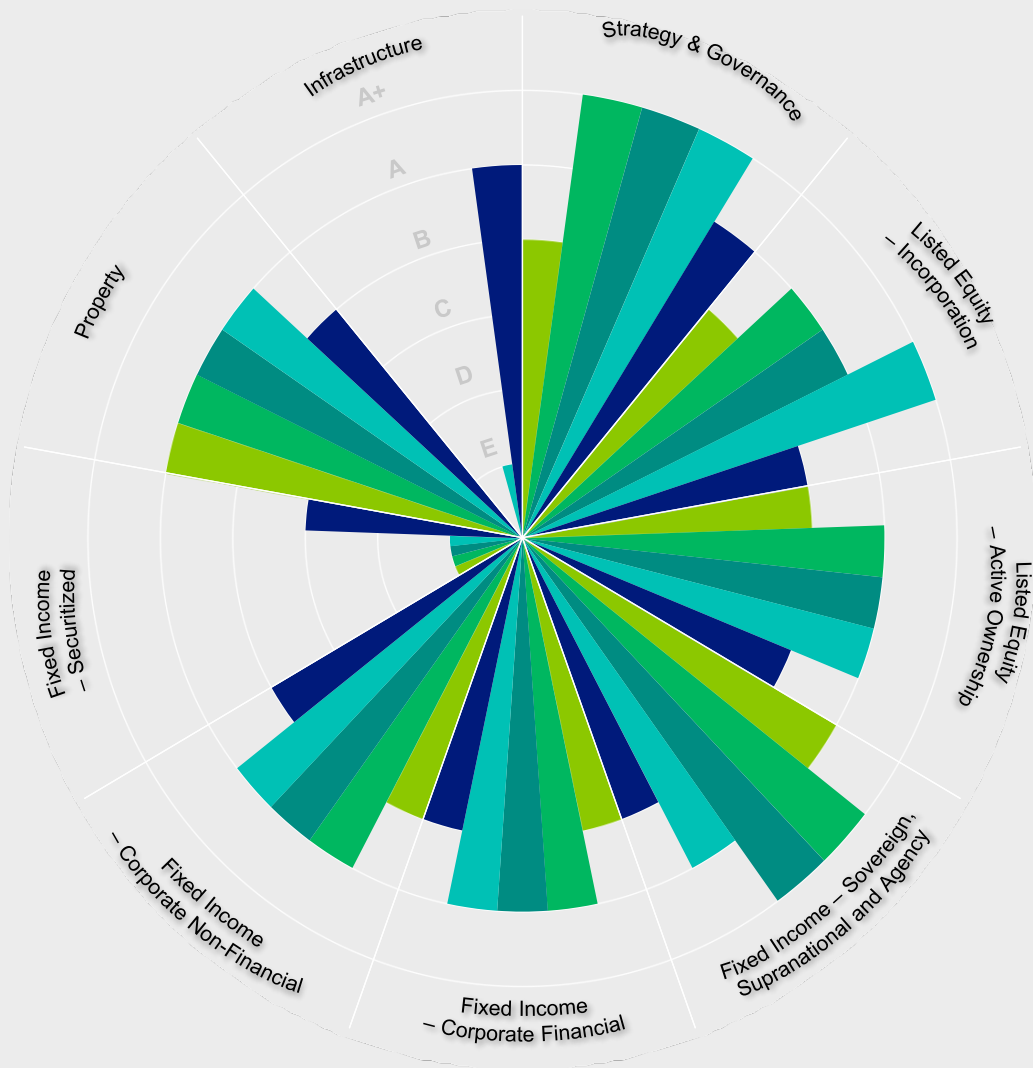
インベスコは、責任投資実践を強く支持しており、国連主催の責任投資原則（PRI）に署名した2013年に世界的な責任投資へのコミットメントを公式に表明しました。責任投資（Strategy and Governance）における当社の総合的なアプローチが評価され、2019年までA+の格付けを3年連続で取得しています。

PRIは、署名者が前年比またはピア比較でどの程度進んでいるかについて毎年評価をしているので、この格付けは、ESGインテグレーションやアクティブオーナーシップ、機関投資家との協働、透明性に関する私たちの広範な努力を証明しています。私たちは、素晴らしい投資体験を通じて世界中のお客さまがより豊かになることにコミットしています。

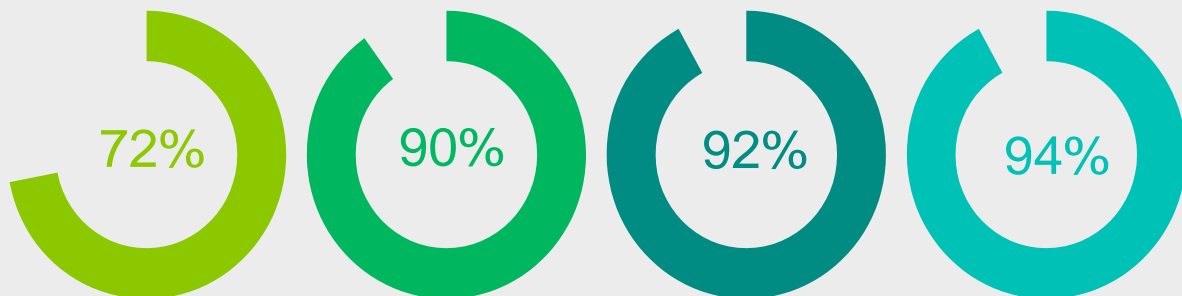


1. PRIからInvesco Ltdに対する2019年評価報告書。投資カテゴリーは、6つのパフォーマンス・バンド (A+, A, B, C, D, E)を用いて評価され、A+は95%以上のスコアを、Aは75%以上のスコアを取得した署名機関であることを表します。

- インベスコ2016
- インベスコ2017
- インベスコ2018
- インベスコ2019
- 2019 中央値



総合スコア





## 2.2 ESGへの取り組み

ESG投資は、インベスコの基本的コミットメントです。私たちのESG理念は、ESGが持続可能な価値創造とリスク管理に影響を及ぼす可能性があること、ESGモメンタム（勢い）を持つ企業は投資機会をもつ可能性があるということになります。インベスコは、世界最大級の資産運用会社として企業に変革を促すことのできる立場にあり、エンゲージメントや対話を通じて企業に影響を及ぼすことができます。私たちは、受託者責任と整合的な方法でESG原則を採用し、それを実践することで、この分野で信頼されるパートナーとしてお客様にサービスを提供しています。

インベスコでは、投資プロセスや企業エンゲージメント、ESGソリューションを成功させるためにお客さまと協力するなど、様々な局面でESGを適用しています。私たちのアプローチは、リスクと機会をESG投資における意思決定に統合することにフォーカスしており、それは資産クラスごとに異なり、また各地域の運用チームに移譲されています。また、スチュワードシップに対する幅広いコミットメントの一環として投資先企業にもエンゲージしています。インベスコは、多くの社内リソースと外部ツールを活用して、資産クラス全体においてESGに関する専門性を発揮しています。

インベスコは、運用におけるリーダーシップとイノベーションを通じてESG投資における自社のポジションを強化しており、規制や市場環境が変化する中で、お客さまがESG投資を円滑に執行することを手助けできます。

- ESGにコミットメントする信頼されるパートナー
- 3年連続で責任投資における当社の戦略とガバナンスに関してPRIからA+格付けを獲得
- TCFDへのコミットメントに根ざした気候変動プログラム
- 英国と日本におけるスチュワードシップ・コードの署名
- ESGに関する業界フォーラムにおけるリーダーシップ

当社を構成する柱として、「思考の多様性(Diversity of Thought)」というものがあります。インベスコの多様性とは、当社の運用チームや各運用戦略が取る責任投資へのアプローチが異なっていることを意味しています。グローバルESGチームは、世界中の運用チームに配置されており、運用者や運用スペシャリストと緊密に連携して業界トップクラスのESGを実践することで、インベスコが掲げるパーパス（存在意義）「素晴らしい投資体験を通じて人々の人生をより豊かにします」の実現を目指しています。

## 2.3 社内体制と外部リソース

### グローバルESGチーム機能モデル



出所:インベスコ例示のみを目的としています。

### グローバルESGチームの説明

インベスコのグローバルなESGの取り組みは、グローバルESGチームのヘッドであるCathrine De Coninck-Lopezの下、実行されています。ESGインテグレーションの程度は運用チームごとに異なりますが、当社の運用チームは、米国、アジア、EMEA（欧州・中東・アフリカ）の3地域に所在するESGスペシャリストのチームと連携しています。

当社のグローバルESGチームでは、シニアメンバーは平均12年以上の経験を有しており、ESGインテグレーションやリサーチ、議決権行使、エンゲージメント、お客様に関わる営業チームの支援、ESGイノベーションに関するプロダクトチームへのアドバイスなど、当社全体のESG機能のベストプラクティスを提供する責務を負っています。インベスコのESGの取り組みは、議決権管理チームもサポートしています。

インベスコは、ESGチームに加え、ESGチームと密接な関係を持つ各地域の運用拠点にもESGのスペシャリストを配置しています。例えば、当社では2019年に日本を除くアジア地域のESGに関する責任者を就任させました。この役割は、この地域の運用チームにESG問題に関するアドバイスを行います。グローバルESGチームと各地域のESGスペシャリストは、グローバルESGチームのヘッドが議長を務めるグローバル・インベストアーズESGフォーラムを介して協力しています。また、北米とEMEAにおけるESGの促進をサポートするためにも、各地域でのESGフォーラムを実施しています。



## ESGに関する外部データプロバイダー等について

ESG研究プロバイダー						
Sustainalytics	MSCI ESG リサーチ	Truvalue labs	ISS-Climate ソリューション	証券会社	日興リサーチ・センター	
委任状投票分析						
ISS		Glass Lewis			IVIS (イギリス株式)	
委任状投票分析						
ISS-Ethix		Sustainalytics			MSCI ESG リサーチ	
業界団体						
UKSIF	QCA (英国)	英国投資家 フォーラム	GRESB	ACGA (日本)	CII (米国)	RIA (カナダ)
テクノロジー・イネーブラー						
ブルームバーグ		ファンド・マネジャー・ポータル			Illuminate	

(出所) Investo2019年12月31日現在。ACGA:Asia Corporate Governance Association。CII:Council of Institutional Investors。GRESB:Global Real Estate Sustainability Benchmark。QCA:Quoted Company Alliance。RIA:Responsible Investment Association.UKSIF:UK Sustainable Investment and Finance Association。例示のみを目的としています。

### ガバナンス

インベスコのグローバルESGチームは、運用チームと連携し、ESG戦略の実行、企業調査、ターゲットを絞ったエンゲージメントの促進などに関してサポートしています。われわれの深いリサーチ能力には、ESG格付けプロバイダーや議決権リサーチ、事業関与スクリーニング、炭素データなどの様々なリソースが活かされています。また、営業・プロダクトチームがESGに関する専門性をお客様に提供することで、お客様の最善の利益をサポートしています。ESGポートフォリオ分析とESGレポーティングは、内部と外部の利害関係者に提供されます。多くのインベスコの運用チームや運用拠点ではグローバルESGチームと連携し、それぞれが活用するESG手法を明確にしており、チームがどのようにESGを運用プロセスに統合しているかを説明する正式な枠組みを公表しています。

研修は、ESGインテグレーションに対する私たちのコミットメントにおいて不可欠なもので、急速に変化している責任投資の環境に関し常に更新を行っています。当社のグローバルESGチームは、インベスコの運用担当者と会議を開催し、インベスコの責任投資活動に関するESG研修やフレームワーク、業界情報、専門知識、リサーチ、分析、投資家の責任投資に関する最新情報を提供しています。それぞれのミーティングは地域や資産クラスおよび既存のESG能力に合わせて運用チームまたは運用拠点ごとに調整されています。

更に、グローバルESGチームはESGベンダーとの研修セッションを用意し、エンゲージメント手続きや重要な非公開情報に関する準備などを行います。各ミーティングは、毎月のESGニュースレター、イントラネットへの投稿、ポッドキャスト、ビデオおよび電子メールのアナウンスを含むコミュニケーションでも行われます。また、継続的な従業員向け研修プログラムにはESGに関する内容が含まれています。

客観的な保証を獲得するため、当社のグローバルESGチームは、2019年に当社の内部監査部門による評価を受けています。これは、インベスコの業務の付加価値と改善を目的とする、組織全体に関する客観的な助言・調査サービスになります。内部監査部門は、ビジネスリーダーと緊密に連携しながら、組織が直面する最も重要なリスクと課題に焦点を当て、戦略的で革新的な、データに基づく結果を導きます。この規律ある手法は、リスク管理や内部統制、ガバナンスのプロセスの有効性を評価し、改善するために設計されています。内部監査は、インベスコのグローバルESGチームに助言や指示を行い、ESGチームの実践の完全性や一貫性、質を改善しています。

### ESGデータプロバイダ

当社の運用チームは、さまざまな責任投資アプローチを用いてESG戦略を管理し、複数のESGデータプロバイダを活用しています。下記は、その例です。

- Glass Lewis
- ISS
- ISS Climate Solutions
- ISS-Ethix
- IVIS
- MSCI ESGリサーチ

- モーニングスター
- 日興リサーチセンター
- Proxy Insight
- Sustainalytics
- Truvalue Labs
- Vigeo Eiris

持続可能な未来のための解決策にむけて、  
私たちが行うすべてのことにESG原則を  
組み込むことです。



Cathrine De Coninck-Lopez  
ESGグローバルヘッド

# 各資産クラスにおける ESGインテグレーション の進展

# 世界の株式や社債、国債、実物資産、マルチアセット戦略の投資家として、私たちは資産クラスごと、あるいは地理的な違いを十分に認識しています。ESG原則は、資産クラスや戦略に応じて、さまざまな方法で適用されています



ESGを投資プロセスに組み入れる運用チームは、一般的には投資アイデアの評価や企業との対話、ポートフォリオのモニタリングという一連のプロセスに対する1つのインプットとしてESGを捉えています。したがって、ESG評価は投資リスクと機会に関する検討項目の一部として、より広い運用プロセスに組み込まれています。このように、投資の魅力度を評価する際に、ESGファクターを他の経済的要素と一緒に検討することができます。インベスコの運用者たちは、ESGのリスクや機会を考える上で、完全な裁量権を持っています。

ESG理念の中核は、マテリアリティ、ESGモメンタム、エンゲージメントです。マテリアリティとは、リスク調整後ベースかつ経済的意味においてESG問題を考慮することをいいます。EMEA地域における非人道的兵器への投資を禁じるような、特定地域における法的義務に基づく制限を除けば、私たちはESGを制約とはみなしません。ESGモメンタムの概念、つまりESGが時間をかけて改善することは特に興味深いと考えています。ESGの実践面が改善している企業は、長期的には良好な財務パフォーマンスを享受する可能性があることが分かっています。私たちは、アクティブオーナーとしての責任を真摯に認識しており、エンゲージメントを企業に対して継続的な改善を促す機会と捉えています。ポートフォリオ企業との対話は、当社のアクティブ運用における運用プロセスの中核を担っています。私たちはしばしば取締役会レベルの対話に参加し、経営や企業戦略、透明性、資本配分、さらには、より広範なESGファクターについて株主としての意見を述べています。

企業レベルのESGリサーチの出発点は、アナリストと運用者です。アナリストと運用者は、さまざまな要素を調べます。これらは、資産クラスや業種、地理、会社ごとに異なり、通常、全体的な投資に対する見解の1つの構成要素となります。運用者とアナリストがより詳細なESG情報を求める意見に対して、私たちのグローバルESGチームが独自の分析を提供します。重要なことは、世界的に統一化されたESGサポートがある一方で、運用者やアナリスト、すなわち資産クラスや各業種について最もよく知っている者が最終的に決定を下すことができるということです。

ESGインテグレーションは現在進行形の戦略的な取り組みであり、各運用チームではインテグレーションのレベルが異なっています。私たちは現在、これらの原則をインベスコのすべての戦略に適用するよう努めています。



## 企業倫理

契約や政府、販売慣行に関するキャッシュフロー流出や罰金などにより、企業倫理は収益関連リスクとみなされる。



## 将来の資本配分

長期的な考え方と資本配分は、企業の長期的な持続可能性に複雑に結びついていると考えられる。



## カーボン排出量

国連2015年パリ協定における2050年までに世界の気温上昇を2°C未満に抑えるという世界的な目標は、規制上、社会的かつ物理的なリスクと機会をもたらします。



## コーポレート・ガバナンス

取締役会の質や役員報酬、監査、取締役会の実効性および企業報告における透明性は、事業のクオリティを示します。



## データプライバシー

サイバーセキュリティと並び、データ管理に関する消費者の権利を吟味することは、コストと機会の両面を持っています。



## 安全と健康

操業上の安全衛生は、コストに対する重要な影響があり、事業を中断させる可能性があります。



## 労使関係

労働者のダイナミクスや従業員エンゲージメント、離職率、組合との関係、多様性、サプライチェーンの在り方は、コストや生産性、ブランドに影響します。



## 製品特性

製品が社会に与える影響や製品の品質は、利益の持続可能性に直接つながります。



## 水、廃棄物、生物多様性

環境資源に関する操業管理は、コストや事業への社会的認可に重要な影響を及ぼします。



### 3.1 株式

私たちは、ESGリスクが、企業財務の完全性、ブランドや評判、長期的な収益性、価値創造に対して与える影響の大きさを分析しています。ファンダメンタルズ運用のリサーチにおいて、企業がESGの重要課題にどう取り組んでいるかを分析し、その改善状況を評価しています。現在進行中のポートフォリオ・モニタリングとリスク管理の一環としてESG格付けの最新情報を入力し、継続的にその変化を評価しています。長期的に成功するような優位な立場にある企業を特定するのに役立つよう、ESG問題は他のリスク要因やバリュエーション指標と併せて考慮されます。ESGの評価は、投資リスクと機会に関する全体的な検討の一部としてより幅広い運用プロセスに組み込まれています。

私たちの株式運用チームは、外部ESGデータと内部ESG格付けを合わせて使用しています。私たちは、ESG投資とは、ESGに悪影響を及ぼす企業を選別することにとどまらなないと考えています。

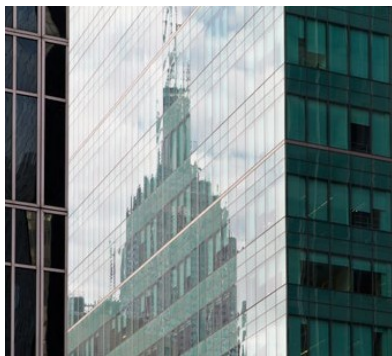
ESGに関する評価（格付けやフラッグ）とボトムアップ調査とを組み合わせ、経営陣と積極的に対話することで、ポジティブな成果を達成しようと努めています。これにより、運用者は、企業の機会とリスクについてできるだけ多くの角度から理解することができます。

私たちは、優れた投資パフォーマンスとESGパフォーマンスの改善の両方を達成するため、除外手法ではなく、エンゲージメントまたは建設的対話に取り組むことにしました。そのため、企業との対話にはESGファクターを恒常的に取り入れています。積極的なエンゲージメントは、経営陣のESGに対する意見や戦略をよりよく理解するための鍵となります。

積極的なエンゲージメント、ESG格付けおよび詳細な調査を組み合わせることにより、当社のポートフォリオは、株式投資においてESGパートナーを探しているクライアントに対して価値を提供すると考えています。



### 3.2 債券



当社の債券運用アプローチは、独自調査を重視するもので、ファンダメンタルズ評価にフォーカスすることでお客様のポートフォリオにおけるアクティブ運用をサポートしています。ESGインテグレーションは、この投資のフォーカスと強く合致しています。ESGに対する私たちのアプローチは、ESG基準を評価することが、より良い長期的なリスク調整後リターンにつながるという確信に根ざしています。これを念頭に置いて、私たちはマテリアリティとモメンタムの適切な組み合わせを模索しています。

私たちは、インテグレーションとエンゲージメントの双方に責任投資アプローチを採用しています。ESGリスクと機会を投資判断に統合しており、またアクティブオーナーシップへのコミットメントの一環として投資先企業や発行体にエンゲージすることが、リスクを削減してリターンを高め、社会や環境にポジティブな影響を及ぼすための最も強力なメカニズムのひとつと考えています。

債券市場は、国によって発行された債券や証券化された債務、民間企業向けローンその他を含み、幅が広く多様です。地理的、構造的、規制的な違いは、データの入手可能性やESGへの意識、経営の関与レベルが非常に多様であることを意味します。

その結果、ESGに対する私たちの潜在的アプローチは変わらずとも、ESGに基づく評価に到達する経路は、特定の資産クラスにおける制約やチャレンジを反映して必然的に異なってきます。私たちは、広範な市場における意味や透明性を確保するために第三者による調査やデータを用いています。これらの外部ソースは、私たちの深い独自の調査を補完します。明確で一貫性のあるアウトプットを提供するために、いくつかの債券チームはESG手法と格付けシステムを開発しています。このシステムには、E・S・Gそれぞれのサブ格付けと評価のトレンドが含まれます。アナリストは、ポートフォリオ・マネージャーが容易にアクセスできるように、この調査をプラットフォームに保存します。また、一部のチームでは、独自のESGスコアリングツールを使用し、先進国と新興国の相対パフォーマンスの比較を可能にする複合的ESGカントリースコアを生成しています。

私たちの独立した調査とESGインテグレーションへのコミットメント、グローバル手法が、債券投資においてESGパートナーを求めるクライアントのために強い魅力を持つと私たちは考えています。

### 3.3 実物資産

私たちは、ESGが主導するポジティブな変化の中心に運用者がいると考えています。グローバル・リスクに大きくつながる可能性のある実物資産の場合、ESG問題の重要性は否定できません。そのため私たちのアプローチは、私たちが生きている場所や仕事が地球の未来に欠かさないものであることを十分に認識したのになっています。

実物資産は、ESG問題の発生と解決の両方において中心を占めることとなります。カーボン排出量と気候変動、住宅用不動産や商業用不動産開発の影響、森林伐採による広範な影響などは、ESGリスクを特定してそれを効果的に管理することによる利点を取り上げる最も良い機会となるでしょう。現在進行形の「ブラウン」から「グリーン」ビルへのシフトは、テナントの生活や不動産活用方法を変えることとなります。

「サステナブル」な建築物を特定するための多くの基準があり、私たちはESGに関するあらゆる要素がそのプロセスに組み込まれるべきであると考えています。この網羅的な考え方は、様々なステークホルダーと関わりを持つことを意味しており、ニュースヘッドラインになるような環境問題だけに注目するようなものとは対照的です。

私たちは、ESGについて十分に考え抜かれて規律のあるアプローチを取ることで、お客さまのニーズに応え、受託者責任を果たしながら、社会的責任と環境的責任のバランスをとることができると考えています。

持続可能な不動産は、世界的脅威に対抗することだけではなく、個人にも関係します。テナントと占有者が行う選択が資産の長期的なパフォーマンスに大きく寄与します。私たちは、効果的なESGインテグレーションが、グローバル・リスクを特定して管理するための重要な手段になると考えています。私たちのアプローチは、包括的でフォワードルッキング（未来志向）であり、能動的です。私たちは、データと対話を最大限に活用し、透明性や説明責任、所有者の自信を育み、投機ではなくスチュワードシップに基づく長期的観点に根ざすものです。

ESGインテグレーションとリスク軽減に関する私たちのアプローチが、持続可能な実物資産への投資においてパートナーを探すクライアントにとっての機会となると私たちは考えています。



#### インベスコの不動産運用による多面的なESGインテグレーション

Invesco Real Estate(IRE)チームは、持続可能な不動産を特定・管理する際に、以下のESGの観点を考慮しています：

##### 環境

- 建物のエネルギー消費やカーボン排出量、水や廃棄物のレベルを測定し、定期的に報告すること
- コスト低減措置や資本改善、新技術の評価・実践し、資産パフォーマンスを改善させ、建設環境を進歩させること
- 建物のエネルギー効率を評価するスキームの利用
- BREEAM、LEED、Energy Starなどのスキームによる第三者認証取得の実現可能性の評価
- 規制緩和されたエネルギー市場におけるエネルギー調達管理手法



##### 社会

- プロパティマネージャーが持続可能性の問題に取り組むためのツールとリソースの提供
- 各不動産の種類に応じたエンゲージメントツールを活用してテナントの持続可能性の実践の促進
- テナントや居住者がより健康的な生活を送れるよう、施設にサービスやアメニティ（ジム、自転車の保管場所、緑地など）を提供
- ESG問題に関する従業員研修の提供
- 持続可能性に関する課題についてコミュニティとの関わり
- 多様性・包摂（インクルージョン）の支援



##### ガバナンス

- ESGの実践と投資決定における持続可能性の統合に関して不動産業界をリード
- GRESB(Global Real Estate Sustainability Benchmark)やGRI(Global Reporting Initiative),INREV(European Association for Investors in Non-Listed Real Estate Vehicles),CDP(Carbon Disclosure Project),PRI (Principles for Responsible Investment)などに基づいて、ESG戦略とパフォーマンスを投資家向けに透明に開示すること
- 社員一人ひとりが誠実で倫理的な行動の最高水準を遵守すること



# 現実世界で結果を出すためのアクティブオーナーシップ





私たちは、アクティブオーナーとしての責任を真摯に受け止め、エンゲージメントを企業に継続的な改善を促す機会と捉えています。インベスコの運用チームは、取締役会レベルの対話に参加することが多く、経営や企業戦略、透明性、資本配分さらにはより広範なESGファクターについて、株主としての意見を述べる機会をもっています。2019年6月30日までの1年間で、投資先企業との1,000回を超えるミーティングで、運用チームはESGに関するトピックを取り上げており、これは前年同期比で4割以上増加した数値となります。

エンゲージメントが成功するかどうかは、達成することが簡単ではないながらも達成度合いや進捗状況を把握できるような明確な目標を持っているかどうかにかかっていると私たちは考えています。経営陣との限られた時間を最大限に活用するために、社内外の資源に係るESGリスクファクターや重要な課題について優先順位を付けています。ESGインテグレーションは進化しており、企業のESG報告の充実化や、企業開示の全体的な向上に努めています。

エンゲージメント・プロセスを通じてインベスコの規模を活用することにより、有効なエンゲージメントができる可能性を高めています。私たちは、この集合としての力を利用して、経営陣の注意を喚起し、私たちの影響力を行使して、私たちが投資している企業や団体から、より強力な持続可能性に関する行動を促すことができます。私たちは、資本利益率の最大化とESG原則の実現というお客さまにとっての両方の目標を達成するために、非常に積極的なアプローチをとっています。投資家の視点からESGの重要性に経営陣を巻き込むことは、私たちのアプローチの顕著な利点です。

2018年7月1日から2019年6月30日までの期間の株主エンゲージメント  
出所:インベスコ



82%

が当社に直接コンタクト



60%

のエンゲージメントで  
役員報酬を討議



52%

の企業がCEO/Chairman  
や取締役がポートフォリオ  
マネジャーやアナリスト、  
ガバナンスチームと対話



40%

のリクエストがエンゲージ  
メント対話に発展



31%

のエンゲージメントが  
環境/サステナビリティ  
テーマに関するもの



29%

のエンゲージメントが  
ガバナンスに関する  
もの



18%

のエンゲージメントが  
ソーシャルに関するもの



12%

のエンゲージメントがアクティ  
ビスト側法務アドバイザーが  
行ったもの



4%

のエンゲージメントが  
アクティビストが行ったもの

1. この活動を導くエンゲージメントポリシーを、多くの運用拠点（ヘンリー運用拠点のステewardシップ・コード、不動産のエンゲージメントポリシー、およびクオンツ戦略のエンゲージメントポリシー）などを公表しています。

## 4.1 ケーススタディ



### 環境に関するエンゲージメントと議決権行使事例

私たちの重要な目的は、産業革命以降の気温上昇を2度以下にとどめるとするシナリオのために、このエネルギー企業が炭素集約型化石燃料からの移行に取り組もうとする方策についてよりよく理解することでした。これは、エネルギー企業が直面する最も重要な長期的ESGのリスク要因であり、私たちのエンゲージメントの結果は2019年の株主総会で当社がどのように投票するかに影響します。

私たちはIR責任者と会い、気候変動に対処するための彼らの計画について議論しました。同社は積極的に取り組んできましたが、脱炭素計画は他のOECD諸国よりかなり遅れており、現在の化石燃料投資がこの計画にどのように適合しているかについて十分な情報を開示していないと感じました。そのため、同社の経営陣に対する1) 化石燃料に関する同社の設備投資のバリ協定の整合性、2) スコープ1、2、3の排出量削減に関する短期、中期、長期の目標設定、3) これらの目標に向けたインセンティブとしての役員報酬—という株主提案を私たちは支持しました。

提案は否決されましたが、最も支持された株主提案でもあり、委任状投票の支持率は7.90%でした。これは、同社の脱炭素化のスピードや、新たな化石燃料投資をめぐるさらなる開示について、株主が具体的に反対を表明したことを示しています。私たちは、引き続き状況を監視し、これらの懸念に対処するための経営陣への要望を改めて表明しています。



### 環境に関するエンゲージメント事例

当社は、長期的な株主として、この米国の資本財（インダストリアル）企業の取組みの進捗について毎年関わるのが責務であると考えています。この企業は過去1年間に情報開示に関する大幅なアップデートを行ったことから、ESG部分に関するプレゼンテーションについて2019年7-9月期に議論をしました。

今年の新たな開示には、取締役会の変化、多様性へのコミットメント、企業ビジョン、戦略と長期的な財務目標と報酬慣行との関連性、ESGとCSRイニシアチブのための新たな憲章など、より明確にする必要がある情報が含まれていました。

2015年から2018年にかけて、エネルギー、二酸化炭素、水、廃棄物の削減が着実に進んでいることが確認されましたが、今後も継続していく予定です。今後、これをどのように維持・拡大していくのか、その計画を知りたいと考えました。同社は、エネルギー効率に焦点を当て、持続可能性会計基準委員会（SASB）の指標をどのように活用するかを評価するなど、今後このことを確実にするための枠組みを提供しました。

**私たちは、鉱滓ダムおよび鉱山事業における労働安全に関する共同投資家エンゲージメントイニシアティブに引き続き積極的に関与しています。**



### 社会に関するエンゲージメント事例

英国の大手銀行の多くは、ジェンダー別の給与ギャップに対する批判を受けており、財務パフォーマンスとダイバーシティとの関係が示されていることを考えると、これは私たちにとって強い関心のある分野です。私たちは、性別多様性に対処するために企業が行ってきた行動を理解することを重要な目的として、この大手銀行と協力し、さらに、企業の監督を改善し、文化を変えるためのより一般的な措置を講じました。

2018年から2019年にかけて、当社のESG専任チームは、同社の経営陣や会長とミーティングを数回実施しました。この会合の間、私たちは、これらのセクター全体の課題に取り組むことの重要性を強調し、銀行がこれらの課題に取り組むために何を行っているか質問しました。その後、これらの取り組みを追跡し、銀行のコーポレート・ガバナンスに関する共同投資家ラウンドテーブルにも参加しました。

こうした取り組みの結果、銀行は問題に取り組み、ESGのポジティブな軌道に乗っていると思われました。同行は、転職後に復職する女性を中心とした「カムバック」プログラムなどを通じて、ジェンダーバランスの改善を図ってきました。

同行の進捗を示す証拠は、英国の主要な銀行で初めて2019年に女性の最高業務執行取締役が任命されたことで実証されました。また、企業文化を変えるために、スタッフ研修を実施したり、倫理違反行動のインセンティブになり得るボーナスをフロントのスタッフから取り除くなど、企業文化を変えようとする試みも行われています。これを踏まえ、様々な措置が取られていることに満足し、さらに企業のダイバーシティ指標の進捗状況を把握するため、企業をモニタリングしていきます。

**経営陣とのミーティングは、当社の運用プロセスの不可欠な部分であり、多くの場合、重要なESGトピックをカバーしています。**



### ガバナンスに関するエンゲージメント事例

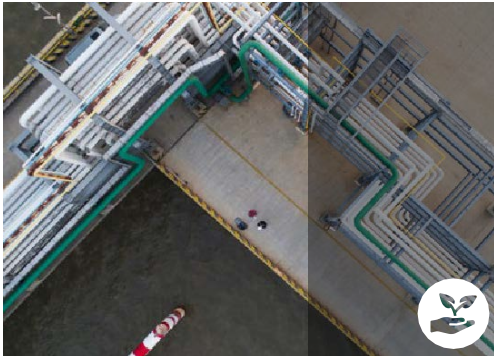
私たちは、東京に集中してオフィスビルを所有する日本の大手不動産オーナー・デベロッパーの長期株主でもあります。同社は質の高い不動産資産を保有していますが、その株価は原資産ポートフォリオの価値を大きく下回り続けています。

数年間にわたり、当社は経営陣と直接対話をし、過半数が内部者という日本の伝統的な取締役会の構造から、より株主に目を向けたガバナンスへと改善することを促してきました。論点の中心は、取締役会の構成と独立性、経営陣の報酬、株主還元政策、買収防衛策（ポイズンピル）でした。進捗のスピードは緩慢でしたが段階的に改善されており、企業は対話を受け入れています。2018年までに、同社は監査、報酬、指名の3つの委員会構成を採用し、すべての委員会は独立取締役が委員長を務め、ベストプラクティスに沿ったものとなっています。

しかし、買収防衛策や株主還元策については、株価が割安な水準にある状況が続いているにもかかわらず、これまで取り組まれていませんでした。引き続き、自社株を買い戻し、株主のための価値を創造するために、割安な状態を活用した包括的な株主還元政策の重要性を主張しました。こうした対話を経て、2019年にはポイズンピルを廃止し、自社株買いプログラムが決定されました。



## 4.1 ケーススタディ



### 環境エンゲージメント事例

私たちは中国の大手石油会社に投資しています。同社は、炭素負債に起因するリスクにさらされており、そのカナダ子会社は規制や低炭素シナリオにおける財務的観点からも同社のせい弱性を増大させています。

同社は、低炭素戦略を推進し、クリーンエネルギーの推進とエネルギー効率の向上に努めています。同社は、省エネ・排出量削減のために特別に出資するとともに、技術進歩による取り組みも行いました。また、明確かつ完全な組織体制のもと、計画的なエネルギーの削減を実施しました。

しかし、同社は、同業他社の実施に関わらず、温室効果ガス（GHG）リスク管理プログラムの明確な削減目標や期限を設定していませんでした。私たちは出席したいくつかのミーティングにおいて、これらの懸念を繰り返し提起しました。

最終的には、2019年6月に、2020年のカーボン排出量を2015年レベルまで削減することや、2050年までに低カーボン排出量の主要指標において世界的リーダーになることを目標とした「グリーン開発アクションプラン」を発表しました（グループ全体の目標は親会社が発表）。

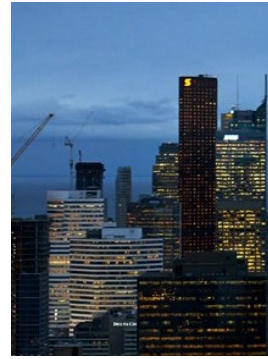


### 環境とガバナンス事例

私たちは、ニュージーランドのリテール製造会社のCFOと会い、ESGに関する最新情報を入手しました。当時、比較的少量の情報開示と中国の乳児用調合乳の安全性に関する論争を考慮すると、私たちはESGの観点から彼らにかなり否定的な印象を持っていました。しかし、CFOとのミーティングで、現在の投資家向けコミュニケーションでは公表していない、ESG特性に関連する興味深く前向きな事例に数多く取り組んでいることが明らかになりました。

健康・栄養分野では、ESGの成長分野である栄養状態の改善を図った多くの乳製品を提供していました。カーボン排出量では、自然エネルギーの使用量を増やし、カーボン排出量を削減しました。包装については、サプライヤーと連携し、製品に使用する包装材の削減に取り組んできました。これら3つの重要なESGファクターの中で、食品・飲料会社業界をリードする政策を同社は積極的に推進していましたが、一対一の会社ミーティングがない限り、投資家がこのような取り組みを知ることができませんでした。

私たちは、投資家コミュニティにとってESGの重要性が高まっていること、それに関する同社からのメッセージがないことを経営陣に伝えました。同社に関する最も入手が容易なESG情報は、中国での乳児用調合乳に関する過去のトラブルでした。当社とのミーティング以降、同社の報告書でESGに関する事柄がより多く掲載されるようになり、投資家向けプレゼンテーションでは同社の財務目標と並んでESG目標が掲載されるようになりました。これは、同社のESG特性のポジティブな一歩であり、ESGエンゲージメントの好例であると考えています。同社のESG特性に過去の製品の安全性に関する不祥事を勘案しつつも、それが改善していることを考慮し、次回のサステナビリティレポートの発行時にレビューすることとしています。





#### 環境・社会に関するエンゲージメント事例

カナダの鉱物生産会社は、私たちのファンドの中で最も高い確信をもって投資している企業のひとつです。同社は2016年にメキシコに鉱山を建設しており、私たちは初期のシード投資家でもありました。経営陣と積極的な対話を行い、同社は当初から最良の安全・環境対策を実施し、地域社会とも積極的に関わってきました。

これは、直近会計年度に最もよく反映されており、休業災害の発生頻度は1時間未満（100万時間当たり）であり、労働力はメキシコから98%、地方自治体から63%、近隣の地域社会から52%です。これに加えて、年2回の外部審査を受け、2018年には「報告義務事故ゼロ」という強い環境活動を展開しています。

今年は、地域社会と良好な関係を築くことが重要である事例がありました。従業員のごく一部が、現地従業員組合をより大きな国家組合に変更しようとして、鉱山事業を妨害していました。この間、経営陣は私たちに連絡を取り、私たちと積極的な対話を行い、課題解決のためにとった各ステップを説明しました。大胆で重厚なアプローチを取って従業員が経営陣に対し負の感情を持つようになるのではなく、現地のメンバーと協力し、懸念に耳を傾けることを同社は目指していました。

経営陣の第一歩は、全従業員の安全を確保するために業務を停止することでした。反体派との対話を開始し、労働力の大多数が望むものであることを条件に、新たな労組選挙を受け入れることを表明しました。国家警察や何らかの暴力を避けて安全を確保することが、同社の業務にとっては最重要でした。最終的には、コミュニティへのエンゲージメントの歴史を通じて、より広範なコミュニティとの親善のためにも（非暴力的な方法で）妨害の解除を命じた地域コミュニティ・メンバーによって、この問題は解決しました。経営陣が、行動を起こしながら私たちとコミュニケーションを確保していたことは非常に安心できることで、その結果、私たちは同社株式への投資を継続しました。実際、経営陣の行動は、未開発地域で事業を展開している他社のモデルになると考えています。この事例はまた、強力なコミュニティ支援の付加価値を実証しています。



**インベスコは、独自の対一のエンゲージメントと並んで、協働投資家エンゲージメントに参加することの重要性を認識しています。そこで私たちは2020年にClimate Action100+の一環として、共同リード投資家の役割を果たします。**

## 4.2 運用者主導の議決権行使

### アプローチ

インベスコのコーポレート・ガバナンスおよび議決権行使のアプローチは、当社のウェブサイトに掲載されている「グローバル・コーポレート・ガバナンスおよび議決権行使に関する方針」（グローバル・プロキシ・ポリシー）に定められています。グローバル・プロキシ・ポリシーは、私たちの投資家としての議決権行使に関する広義の理念と原則を定めています。

議決権行使プロセスは、運用スペシャリストによって実施され、お客様の長期的価値最大化と権利保護、企業経営および取締役会の株主に対する説明責任を強化するガバナンス構造および慣行の促進に焦点を当てています。

私たちは、米国で5年以上にわたって積極的に活用され、2017年初頭には全世界の拠点で活用されるようになった、独自の議決権行使システム「ファンド・マネジャー・ポータル」を開発しています。私たちは、運用者が株主総会投票で自分の意思決定を行い、投票において自分の意見を反映するようにしながら、同時にインベスコ全体で重要な問題について協力できるようにしたいと考えてきました。ファンド・マネジャー・ポータルは米国で特許を取得しており、ファンド・マネジャーが発行体企業に関する知識の制度的基盤とするために活用できるグローバルな知識共有プラットフォームです。2019年には、議決権行使の際に広範なESG指標がシステムに導入されました。投資専門家は、グローバルのガバナンス専門家とインドにある議決権チームによってサポートされています。ファンド・マネジャー・ポータルは、専門のITチームによってサポートされています。

当社のグローバル・インベスコ・プロキシ・アドバイザー・コミッティ（GIPAC）は、世界の投資家によって構成され、当社のグローバル・プロキシ・ガバナンスおよび議決権行使担当者が議長を務めています。IPACや議決権管理、コンプライアンス、法務チームが議決権行使ポリシーをレビューしており、各地の運用拠点における規制や運用ガイドライン、手続き等が、お客様にとって最善の利益となり、規制要件やガバナンス動向、業界のベストプラクティスと整合的であることを担保します。これには、当社の「グローバル・コーポレート・ガバナンスおよび議決権行使に関する方針」に記載されているインベスコの紛争管理の方針および手順も含まれます。

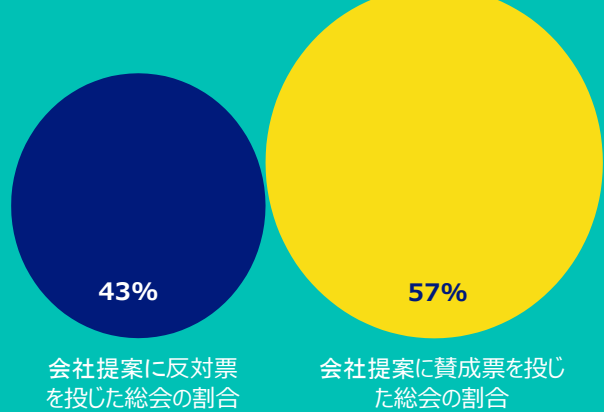
私たちは、毎年、米国証券取引委員会に、IVZ US1940Act Mutual Fundsの全書類を提出し、当社のウェブサイトに掲載して、当社の議決権行使を公開しています。英国および欧州では、インベスコは、英国スチュワードシップ・コードおよび欧州株主権利指令に従い、毎月投票を公開しています。カナダでは、インベスコは、National Instrument 81-106 Investment Fund Continuous Disclosureに準拠するため、毎年行使結果を公開しています。

### インベスコの議決権行使に関する統計概要

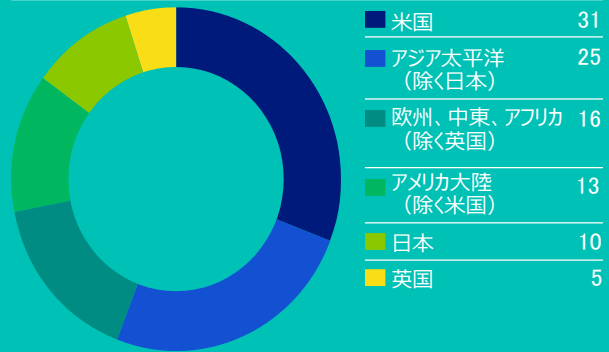
株主総会における行使状況  
独立したミーティングの数

9,854

### 株主総会における議決権行使



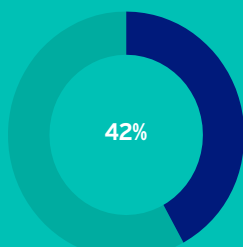
### 地域ごとの内訳 (%)



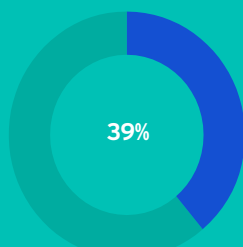
出典: Invesco 議決権行使データ 2019年1月1日～2019年12月31日



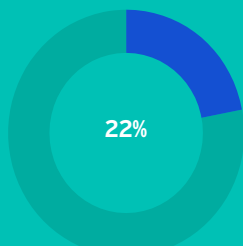
## 株主提案について



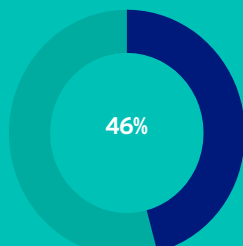
取締役会における  
ダイバーシティの促進



性差による  
給与ギャップ

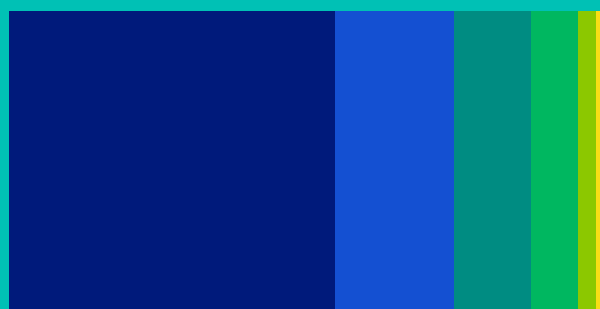


環境&コミュニティに  
関する影響



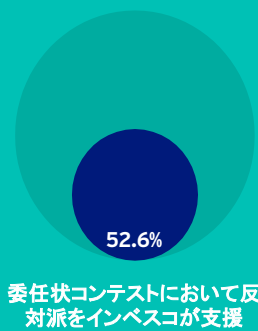
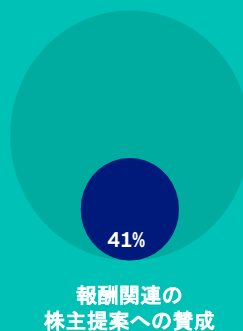
気候変動に  
関する報告書

## 分類別、会社提案への反対投票（%）



取締役関連	55
給与以外の報酬	20
資本政策	13
定例/事業	8
組織改正&合併	3
買収防止策関連	1
優先株/債券保有者	<1

## 2019年その他のインベスコの議決権行使データ



**Zoje Vataj**  
Global Proxy Governance  
and Voting Manager

議決権行使とガバナンスに関する考えこそがインベスコの独自性を際立らせています、議決権行使のアプローチは運用者に意思決定兼を与えており、それこそが最終的に私達のクライアントにとって最善の行使結果につながります。



# インベスコの ESG商品力

インベスコでは30年以上にわたりESG戦略を実践してきましたが、今日では株式や債券、マルチアセット、オルタナティブ、不動産、ETF、ソリューションという分野においても提供しています。当社の各運用拠点は、それぞれの運用プロセスにおいて明確な独自のESGアプローチを適用し、各資産クラスの運用に利用しています。

当社は、以下のESG戦略や基準を用いて運用をしています：

#### ESGインテグレーション

- ESGファクターを運用プロセスにシステムティックに組み入れること

#### ネガティブ・スクリーニング

- 特定のESG基準等に基づく特定セクターや企業または事業をファンドポートフォリオから除外すること  
- アルコール、賭博、原子力、ポルノ、たばこ、武器などに関わる事業

#### 持続可能性に注目したソリューション

- 持続可能な責任投資の成果を投資目標の一部とするもの  
- ポジティブ/ベストインクラスのスクリーニング  
- 複合ESG戦略  
- ベストインクラスやノーム・ベース、ポジティブ、ネガティブおよび/または除外基準を組み合わせる  
- テーマ型投資

#### インパクト投資

- 金融収益に加え測定可能で有益な社会的または環境的インパクトを生み出す意図



ESG商品カ	ESGインテグレーションと エンゲージメント	除外	持続可能性 フォーカス	インパクト 投資
株式	✓	✓	✓	
債券	✓	✓	✓	✓
不動産	✓			
クオンツ	✓	✓	✓	
オルタナティブ	✓	✓		
ETFs	✓	✓	✓	



## 5.1 2019年のESG商品ローンチ

インベスコでは、ESGをポートフォリオ管理プロセスや特定の商品に組み込んでいます。本節では、2019年にローンチされた新戦略の中で商品レベルでESGを反映している戦略を紹介します。

ポートフォリオ	投資地域	ESG基準
新戦略1	欧州	<ul style="list-style-type: none"> <li>- MSCI ESGリーダーズ・インデックス</li> <li>- 価値観ベースの除外を含むベストインクラス</li> <li>- 同業他社対比で高いESG評価銘柄</li> </ul>
新戦略2	欧州または世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>- MSCIヨーロッパ/USA/ワールド指数</li> <li>- ESGが良好または改善傾向にある企業をオーバーウェイト</li> <li>- ESGファクターを用いた除外スクリーニング</li> <li>- ESG格付けとトレンドに応じた銘柄加重</li> </ul>
新戦略3	欧州	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ESGを融合した長期的な資本成長を目指す</li> <li>- 特に環境基準に重点を置く</li> <li>- 銘柄選択に定量的手法を適用</li> </ul>
新戦略4	米国	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ESGを融合した長期的な資本成長を目指す</li> <li>- 広範な銘柄分散と、一部の産業を回避</li> <li>- 発行体のESG特性を考慮し、自社ESG評価を導入</li> </ul>
新戦略5	世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 長期的に優れたリスク調整後リターンを追求</li> <li>- 明確に定義されたESG基準を満たす世界株式</li> <li>- バリュー・クオリティ・モメンタムのファクターの内部スコアリング</li> <li>- クオンツ・モデルによる銘柄選定</li> </ul>



インベスコが運用するファンドの1つは、ベルギーの金融セクター連盟であるFebelfinから「Towards Sustainability」を受賞しました。これは、金融商品が持続可能性を念頭に置いて運用されており、持続不可能な事業にさらされておらず、投資家自身が詳細な分析を行う必要がないことについて、潜在的投資家に対して信頼と安心を与えることを目的としたものです。





インバスコは、ESGファクターを活用したソリューションを含む、最高の運用ソリューションを提供するために、社内外のステークホルダーと協力することにコミットしています。



**Glen Yelton**  
Head of ESG Client Strategies,  
Americas



# 気候変動とSDGs

## 6.1 気候変動



### ガバナンス

インベスコは、次世代の健全でクリーンな環境の維持に貢献する責任を認識しており、事業活動における環境に関する継続的な改善に取り組んでいます。気候変動への対処には、パリ協定に沿った持続可能な気候ニュートラルな経済への移行に資金を提供するために、大幅かつ継続的な資本配分が必要になります。

2019年にインベスコはTCFDのサポーターとなり、2020年に当社のTCFD報告書第1号を発行する予定です。TCFDは、企業としての当社だけでなく、企業エンゲージメントを含む私たちの運用手法においても、気候変動問題において私たちをうまく導いてくれます。私たちの気候変動アプローチはTCFDに沿ってガバナンス、戦略、リスク管理、ディスクロージャーの4つの柱に基づいています。

企業としての私たちにとっての気候変動の重要性を踏まえ、私たちは構造的なガバナンスモニタリングを開始することになりました。現在、私たちは気候変動を監視するために地方分権的なアプローチをとっており、各地の運用拠点に自律性を持たせています。経営幹部チームのメンバーで構成されるCRC(Corporate Responsibility Committee)は、ESGの主要テーマをグローバルに統括しており、グローバルな企業・運用管理プログラムやポリシーを監督しています。私たちのグローバルESGチームは、投資リスク分析に対して助言し、投資先企業にエンゲージし、議決権行使を行います。気候リスクは各運用チーム内でも管理されています。



### 戦略

世界のさまざまな株式、債券、マルチアセット、ソリューションをカバーするアクティブ投資家として、私たちは、あらゆる部門および資産タイプに対する気候変動のインパクトに関心を持っています。私たちの気候変動戦略は、気候関連のリスクと機会が、私たちのポートフォリオや投資先に与える影響を明らかにすることを目的としています。私たちは、インテグレーション、エンゲージメント、プロダクトソリューションに注力しています。パリ協定における気候変動レジリエントモデルに移行中の資産における投資機会を特定するために、私たちの運用チームは運用スクリーニングや開示データを組み入れた気候フォーカス・フレームワークを開発しました。投資先を単に排除するのは異なり、企業や発行体に対する包括的なエンゲージメントが投資家が高い持続可能性パフォーマンスと強力な投資リターンを組み合わせることができることを保証するだけでなく、気候ニュートラルな経済への移行において私たちが果たすべき役割をすべての企業が持っているという強いシグナルを企業に送ります。

2020年1月、私たちはClimate Action100+と気候変動に関する機関投資家グループ (IIGCC) に参加し、特定の企業について積極的に関わってきました。私たちはまた、世界経済フォーラム気候レジリエント投資連合 (CCRI) に参加しました。CCRIは、気候リスクを意志決定に統合し、すべての国について気候問題に強い経済への転換を促すことによって、投資を変革することを目指すワーキンググループです。私たちは主要な不動産投資家として、CCRIへの参加が既存の投資に気候変動評価がよりよく統合されることを促進するとともに、将来の投資を気候変動に強いインフラストラクチャーに投じるのに役立つこととなります。この取り組みが私たちの投資先企業との対話を形作り、またこの取り組みがカバーしている話題に基づく気候リスク評価のための参照フレームワークとなります。

カーボンニュートラル指標の継続的な統合と、クライアントや投資先企業との気候変動に関するエンゲージメントの拡大を通じて、私たちは投資家に投資のアウトパフォーマンスと組み合わせたカーボン排出削減を実現する魅力的な投資ソリューションを提供する能力があることを示しました。

気候変動は、金融リスクと機会の変化を異常なペースで生み出します。それは、システミックな対応が必要になるシステミックで横断的な問題です。



**Maria Lombardo**  
Head of ESG Client Strategies,  
EMEA

### リスク管理

気候変動戦略を実行する運用チームは、重要な気候リスクを管理することで将来優位に立てる企業に投資することを通じてリターン目標を達成することを目指しています。これには、事業の一部を有害な排出から切り離す計画や、そのような事業ラインに対処するための計画および/または排出削減技術を含むイノベーションが含まれます。

私たちは、気候変動のリスクと機会を資産クラスごとに区別しながら、各地の運用拠点に分散されている投資意思決定に統合することにフォーカスしています。私たちは、ポートフォリオ管理から低炭素ベンチマークの利用、気候スクリーニングプロセスの適用まで、様々な気候変動関連サービスを提供することができます。インベスコの多様性により、各投資センターや戦略が気候変動リスクを実践するアプローチは異なります。

### ケーススタディ

2019年、インベスコは年金基金のために、既存のマルチファクター戦略のカーボン排出量が市場ベンチマークのそれを大幅に下回るように削減する独自の低炭素ソリューションを開発しました。

インベスコ・クオンツ・ストラテジー (IQS) チームは、時価総額ベンチマークとのトラッキングエラーを最小限に抑えながら、所定のカーボン削減目標を組み込んだカスタム低炭素ポートフォリオを設計しました。このプロセスは、ベンチマークに対して少なくとも30%のポートフォリオ脱炭素化をもたらし、同時に完全にリスク管理された枠組みでアクティブなマルチファクター投資プロセスからベンチマーク・リターンが提供されるよう設定されました。最終的なポートフォリオは、従来のポートフォリオと同様の特性を示し、したがって同様のリスクとリターンの期待値を示しましたが、同時に安定し計測可能で厳密にリスクコントロールされた方法でカーボン排出量をベンチマーク以下に削減しました。

### 開示

私たちが投資先企業の情報開示に期待するように、私たち自身の現在の取り組みについても情報開示を行い、その内容を企業に対して周知していかなければなりません。私たちは、受託者責任と気候耐性のある事業経営のために、データおよび行動の透明性を重視しています。そのため当社は2016年から「カーボンディスクロージャープロジェクト (CDP)」にデータ開示をしています。

私たちは、操業における温室効果ガス (GHG) 排出量データや環境負荷を低減するためのイニシアチブを評価・管理しています。前述したように、私たちは、2020年に初めて、ガバナンス、戦略、物理的・移行リスク管理、シナリオをTCFDに報告します。私たちは、カーボンフットプリント、プラスチック、水、廃棄物など、環境負荷に関する業務指標も開示しています。気候変動に関する株主投票の指標やGHG排出に関する提案など、投資決定において考慮された指標は公開されています。また、インベスコの不動産ポートフォリオのESGパフォーマンスに関する指標 (GRESBスコア) も開示されています。特定のファンドについては、気候関連の指標 (スコープ1、2、3の排出量、炭素集約度) を含むESGファクトシートが作成されています。2020年末までにより広範なシステムを構築するため、より多くのファンドに同様の手法を適用しました。

インベスコでは、「素晴らしい投資体験を通じて人々の人生をより豊かにする」ことを会社のパーパス（存在意義）として掲げています。これが、私たちのむかしのカルチャーをはぐくみ、お客様の資金を責任を持って管理し、そしてグローバルな持続可能性に貢献するための私たちの努力を形成します。国連の持続可能な開発目標（SDGs）は、2030年までに持続可能な開発目標を達成するための大まかな道筋を提供することで、私たちの目的を実践できるようにサポートしています。私たちは、ステュワードシップ活動の実践を通じて、その目標に全面的にコミットしています。



**Nikki Gwilliam-Beeharee**  
Director of ESG research

**SDGsは、今日さまざまな形で活用されている枠組みです。いくつかの例としては、私たちは例えばエネルギー転換や医薬品へのアクセス、アフォーダビリティ（手頃な価格）、性別多様性という項目について企業にエンゲージしています。**

17のSDGsは、国際協調の中ですべての国—先進国も新興国も—による緊急の行動を求めています。気候変動に対処し、海洋および森林の保全に取り組むと同時に、貧困や剥奪を終わらせることは健康および教育を改善し、不平等を減少させ、経済成長を促進する戦略と同時に進められることが求められています。

ESG活動を投資活動に取り入れて責任ある投資を行うことは、お客さまに提供する価値にポジティブな影響を与え、将来の世代のために持続可能な環境を確保するのに役立つと考えています。

## SDGs

例示を目的としています。





私たちのSDGsへの関わり方は結果重視型で、テーマによってさまざまな形のアプローチがあります：

3 12 13  
14 15

### プラスチック

私たちは、プラスチック削減目標設定を奨励するためにエンゲージメントし、プラスチック循環経済を創出するために、New Plastic Economy Global Commitment（400以上の署名団体）などのプラスチックイニシアチブへの賛同や、例えばプラスチックペレットの環境流出に関する業界の透明性向上と情報開示を奨励します。また、私たちは、（PRIが設置した）Plastic Investor Working Groupなどの投資家イニシアチブにも参加しています。

13 14

### 気候変動と水中の生命

私たちは、新しい気候関連技術およびイノベーションに投資し、Farm Animal Investment Risk and Return（FAIRR）のメンバーであり、水産養殖に関する調査を拡張し、ならびにCDPへの情報開示やTCFDやCarbon Trust Standard規格のサポーターでもあります。TCFDは、企業が気候変動に関する目標を測定・設定することを目指しています。

5

### 性別平等

私たちは、多様性と包括性（D&I）研修に関する情報開示やジェンダー比率の目標値設定を奨励します。私たちは、UK Women in Financial Services Voluntary Charterのリード署名者であり、上級管理職における女性比率の目標値を設定しており、インベスコ EMEAでは女性社員へのエンゲージメントや引き留め、雇用、育成を通じてダイバーシティ・プロジェクトに積極的に参加しています。

2 3 6  
8 12 13  
14 15

### 生物多様性

私たちは、エンゲージメントを通じて企業の情報開示向上と積極的な環境リスク管理に取り組んでいます。家畜生産からの重要なESGリスクと機会に関する認識を高め、持続可能な動物性タンパク質サプライチェーンへの移行を促すFAIRRなどのサプライチェーン排出量削減のためのマルチステークホルダーイニシアチブに参加しています。それは、家畜生産が生物生息地や森林の消失の単一で最大の要因であることや、動物性タンパク質に関するサプライチェーンのリスク特性分析を提供すること、資源集約度の低い食品製造について、メンバーのコミットメントを求めるものです。

7 9 11  
13

### 再生可能エネルギー

私たちは、気候変動を運用戦略に統合し、低炭素移行に取り組む企業と協力し、気候関連データをTCFDに開示し、これを通じてサプライチェーンへの影響とスコープ1、2、3、GHG排出の分離を特定・監視し、化石燃料への依存を削減するために政府、公益事業者、その他の利害関係者との協力を促進します。

### SDGsと戦略の整合性

#### SDG5

日本の公平性・女性重視

#### SDG6

3つのテーマ別水ETF

#### SDG7

グリーンエネルギーETF3テーマ

#### SDG9

Invesco Fixed Incomeがインフラ・ソリューションに投資

#### SDG11

インベスコ不動産はグリーンビルへの直接投資

#### SDG13

TCFDコミットメント、世界経済フォーラムCCRI、CDPシテイズ・ワークショップ、インベスコ債券インパクト戦略

#### SDG15

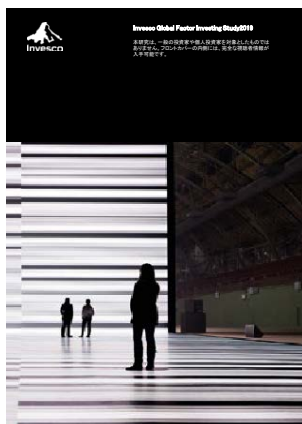
林業テーマETF

# ソート リーダーシップ



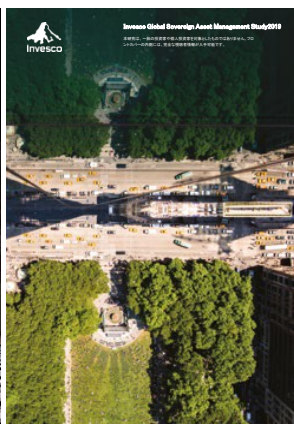
2019 Invesco Global Fixed Income Study

第2回となるグローバル・フィックス・インカム・スタディでは、年金基金（確定給付型と確定拠出型）、ソブリン・ウェルス・ファンド、保険会社やプライベートバンクを含む適格投資家、ファンド・マネジャー、マルチ・マネジャー、モデルビルダーらからなる145名の債券専門家の見解や意見、経験に関する洞察が反映されています。昨年の研究では、債券へのESGインテグレーションが初期段階にあることが明らかにされましたが、今年の結果からはESGがすでにニッチから主流に移行したことが示されています。



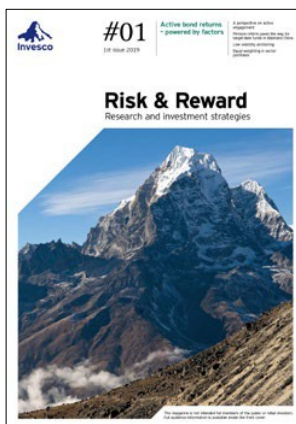
2019 Invesco Global Factor Investing Study

4回目となるグローバル・ファクター・インベスティング・スタディには、2019年3月31日現在で合計25兆米ドル超の資産を運用している132名の機関投資家と109名の適格投資家の見解が反映されています。今年の研究では、ファクター投資採用手法、経験や実践、将来の利用の意図、課題などを調査しました。今年的主要テーマの1つは、ESGがファクター・フレームワークにどのように適合するか、およびESGとファクターが相互にどのような関係にあるのかが検討されました。



Invesco Global Sovereign Asset Management Study 2019

ソブリン投資家に関する私たちの7年目の調査では、2019年3月31日現在で合計20兆米ドル超の運用資産を有する68のソブリン・ファンドと71の中央銀行における最高投資責任者139名、資産クラス別の投資責任者、シニア・ポートフォリオ・ストラテジストを対象としています。ESGが本調査の5つの主要テーマの1つになっており、過去数年の調査をもとに長期的なトレンドを分析し、新たな洞察を明らかにしました。ESGを採用することでどのように価値が向上するかが明らかになるにつれ、ソブリン投資家と中央銀行の双方でESG投資が浸透していることが明らかになりました。



Risk & Reward Research and Investment Strategy - 2019年第1号

ESGエンゲージメントは、ヘンリー・ポイントにおけるすべての投資プロセスにおいて重要な役割を果たしています。私たちは、私たちのコアな信念—とりわけ私たちが除外手法よりもエンゲージメントを好むこと—について説明し、私たちがESGを株式ポートフォリオにおいてどのように実践しているか、またエンゲージメントにおける3つのケーススタディを示しました。この「Risk & Reward」において、お客さまのために行うエンゲージメントが私たちの運用プロセスの中心を占めることや、株主としての力を活用して最高レベルで企業行動に影響力を行使していることを説明しています。



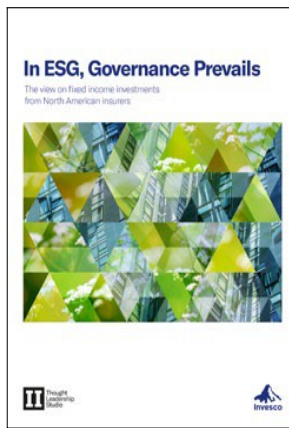
**China Position:**  
機関投資家の信頼を測る

China Positionは、インベスコが Economist Intelligence Unitに委託し、中国への投資に対する現状と将来の投資配分を測るために実施した包括的な調査です。本調査では、世界の411の機関投資家やアセットオーナーの調査結果を分析しています。情報開示の透明性に対する懸念により、中国投資を調査・評価する際に機関投資家やアセットオーナーが用いるプロセスが影響を受けていることがわかりました。また、気候変動の影響に対する懸念が高まっていることから、ますますESGが投資プロセスに統合されていることがわかりました。



**Real Asset:**  
長期について変化を起こす

本稿では、特に不動産を中心に実物資産に関するESGリスクの効果的な特定と管理を検討しました。私たちの実物資産チームが投資プロセスにおいてESGファクターをどう統合しているか、また投資家やその他の利害関係者に長期的な利益をもたらすことを目指すことが持続可能な資本主義をサポートしていることなどを説明しています。ESGファクターの有意義な統合がますます重要になってきていることから、実物資産の運用担当者がこの勢い（モメンタム）をリードし、ESG主導でポジティブな変化を起こす主たる存在であるべきだと考えています。



**Insurance Research:**  
ESGにおいてはガバナンスが中心

北米の保険会社における投資の意思決定者は、債券投資における意思決定において、ESGファクターがリスクを考慮した経済的に健全な意思決定をもたらすと考えているようです。本調査における投資意思決定者は、企業のESG慣行とパフォーマンス、特にコーポレート・ガバナンス・ポリシーの情報価値を認めています。保険会社は、より高い頻度での統一され標準化された情報開示により、企業のESGパフォーマンスに関するより良い情報を得られることを期待しています。長期的には、気候変動問題によって、保険会社が再保険を通じてリスク抑制しようとする戦略がいずれ再評価されることになる可能性があるかと予想しています。



**インベスコ・グローバル債券戦略**

当社のIFI（インベスコ債券運用部門）において、ESGファクターをクレジット・リサーチ・プロセスに統合する手法を紹介しています。現在では世界中のIFIクレジットアナリストがESGにフォーカスしています。アナリストは、すべての企業やソブリンの分析にESGを反映しており、クレジット・リサーチ・プロセスにおけるESGインテグレーションの最新の実践方法で調査が行われています。本稿では、IFIのクレジット・リサーチ・プロセスにESGがどのように組み込まれているかについて、IFIのESG実践リーダーたちとの議論が含まれています。

# 32年間の歩み

## 1987 - 1990

### 1987

- インベスコ・リアル・エステートが、軍事関連投資を除外する戦略を開始

### 1989

- インベスコ・ファンダメンタル・エクイティは、アルコール、タバコおよび賭博に関連する銘柄を除外するファンドを提供

### 1990

- インベスコ・クオンツ・ストラテジーが、ポジティブ/ベスト・イン・クラスのスクリーニングを採用したESG戦略のファンドを組成

## 2003 - 2010

### 2003

- インベスコ・クオンツ・ストラテジーとインベスコ・フィックス・インカムが、ベスト・イン・クラス、ポジティブ・スクリーニング、ネガティブ・スクリーニング、除外基準を組み合わせたESG戦略の合同運用ファンドを組成

### 2005

- インベスコETFがESGをテーマとした2本のETFを組成

### 2006

- インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（東京）がウーマノミクス・スコアを取り入れたファンドを組成

- 国連がニューヨーク証券取引所で責任投資原則（PRI）を公表

### 2007

- インベスコ・リアル・エステートが直接不動産の運用プロセスにESGの組み入れを開始

### 2010

- 英国版スチュワードシップ・コードの第1版が公表

## 2013 - 2015

### 2013

- インベスコがUNPRIに署名。  
- インベスコが英国版スチュワードシップ・コードに署名

### 2014

- PRIがインベスコ第1回評価レポート（2014年度）を提出  
- 米国インベスコが、インベスコ独自のファンドマネジャー（FM）ポータルにおいて議決権行使を開始  
- 日本版スチュワードシップ・コードに関する有識者検討会が責任ある機関投資家の諸原則（日本版スチュワードシップ・コード）を公表  
- インベスコが日本版スチュワードシップ・コードに署名  
- インベスコETFの議決権行使がインベスコに移管

### 2015

- ESGウォッチリストの世界配信開始  
- インベスコがグローバル・プロキシ・ポリシーを採用  
- インベスコUSプロキシ・アドバイザー・コミティー（IUPAC）を設立  
- インベスコ・プロキシ・アドバイザー・コミティー（IPAC）をグローバルに展開  
- 世界的なESG調査ベンダーを採用  
- グローバルで責任投資研修を開始





## 2016

– FRC（英国財務報告評議会）が著名機関に対するTier格付けを開始。インベスコが、強固なプロセスとステewardシップ・コード諸原則の遵守により、Tier 1を取得

–債券、直接投資、議決権行使においてPRIから「A」評価。

–amLeagueのグローバル・ロー・カーボン・マndेटでインベスコが1位を獲得（2016年4月、7月および9月）

–インベスコ・リアル・エステートの3戦略が、2016年グローバル・リアル・エステート・サステナビリティ・ベンチマーク（GRESB）評価で同種戦略中1位に選出

–インベスコ・クオンツ・ストラテジーが、世界の社会および環境関連投資に注目したファンドを組成

–2016年ニューズウィーク・グリーンランキングで米国資本市場第1位

## 2017

–2017年PRIから戦略・ガバナンスと債券SSAIについて「A+」評価

–北米のAsset managers and BrokersでESG leaderとして認定

–PRI持続可能な開発目標（SDG）のアクティブ・オーナーシップに関するワーキング・グループのメンバーに就任

–Deep Data Delivery Standardで表彰

–UKSIFの理事会メンバーに就任

–2017年第一回CIO's Industry Innovation Award for ESGの最終候補に選定

–PRIのESG Engagement Advisory Committeeに指名

–初のInvestment Stewardship and Proxy Voting Annual Reportを発表

–初のCorporate Social Responsibility CSR Reportを発表

## 2018

– PRI 債券アドバイザー・コミュニティのメンバーに就任

–PRIマクロ経済リスク・アドバイザー・グループのメンバーに就任

–デンマークのダンスケ銀行と共同でホワイトペーパーを執筆

–ICIグローバルESGタスクフォースのメンバーに選出

–カナダのResponsible Investment Associationに参加

–2018年「CIO's Industry Innovation Award for ESG」受賞

–2018年、PRIから戦略・ガバナンスと債券SSAIについて「A+」評価

–PRIプラスチック諮問委員会メンバーに就任

## 2019 - 2020

– SASB スタンダードアドバイザー・グループのメンバーに就任

– NASSCOM（インド）の2019年 GCC (Global Capability Centers) イノベーションワードを受賞

– 2019年、PRIから戦略&ガバナンスおよび上場株式について「A+」評価。

– TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に賛同

– CII（Council of Institutional Investors）加盟

– SASB加盟

– 2020年、Climate Action 100+に参加

– 2020年、気候変動に関する機関投資家グループ（IIGCC）に参加

– 2020年、世界経済フォーラムのCoalition for Climate Resilient Investment（CCRI）に参加

– 2019年にFarm Animal Investment Risk and Return (FAIRR)にも参加

# 各種イニシアチブへの参加

## 会員・協力

インベスコは、SASB(Sustainability Accounting Standards Board)に参加しています。私たちは、企業と投資家との間での重要な財務に関する意思決定に役立つ情報のコミュニケーションを促進するESGテーマに関する開示基準を確立しようとする、SASBのミッションを支持しています。また、SASBに参加することで、持続可能性を資本市場に統合しようとする要請に対し、SASBのリーダーたちやメンバーと協力する機会が与えられます。インベスコは、標準化され、業界固有のマテリアリティに基づく開示基準を確立することで投資家と企業の双方が市場の期待に応えられると考えるメンバーの活動に参加できることを誇りに思っています。

インベスコはFarm Animal Investment Risk and Return (FAIRR) (Coller Initiative)に参加していますが、FAIRRは集約的畜産生産によって引き起こされる重要なESGリスクと機会に関する認識を高めるための共同投資家ネットワークです。FAIRRは、最先端の研究を通じて投資家が投資の意思決定とアクティブなスチュワードシップ・プロセスに統合できるよう、これらの要因を特定し優先順位をつける手助けとなります。

インベスコは機関投資家協議会 (CII) のメンバーになりました。CIIは、米国のアセットオーナー、主に年金基金やパブリックアセットへの投資を行う州や地方の団体、財団等、からなる非営利団体であり、運用総資産は4兆ドルです。CIIは、効果的コーポレート・ガバナンスや強固な株主権利、活力があり透明で公正な資本市場に関する主導的な発言者です。CIIは、米国の機関投資家とその受益者の長期的な価値を高める政策を推進しています。CIIは、コーポレート・ガバナンスのベスト・プラクティスについてメンバーを教育し、メンバーが同業他社や政策立案者、投資担当者と対話する機会を提供しています。

インベスコは、各地の運用拠点を通して、複数の外部団体をサポートする積極的なメンバーとして活動しており、主な所属団体としては下記があります。

- PRI Investor Signatory
- PRI署名
- TCFD
- CDP (カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)
- Council of Institutional Investors (CII)
- SASB
- Farm Animal Investment Risk & Return Initiative (FAIRR)
- Investor Forum UK
- 英国スチュワードシップ・コードTier1
- Quoted Companies Alliance (QCA)
- UK Sustainable Investment and Finance Association (UKSIF)
- Investment Association UK
- Asian Corporate Governance Association (ACGA)
- Responsible Investment Association (RIA) (カナダ)
- Global Real Estate Sustainability Benchmark (GRESB)
- 日本版スチュワードシップ・コード
- Coalition for Climate Resilient Investment (CCRI)
- Climate Action 100+
- Institutional Investors Group on Climate Change (IIGCC)
- Asia Investor Group on Climate Change (AIGCC)
- Corporate Responsibility Interface Center (CRIC) (ドイツ語圏)

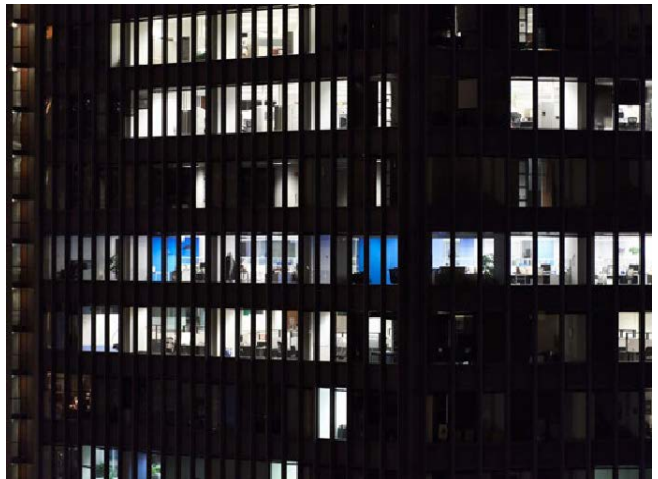
インベスコは、以下のグループへの参加を通じて、業界におけるアドボカシー（発信者）の役割を果たしています：

- Sustainability Accounting Standards Board (SASB) Standards Advisory Group
- UKSIF Board of Directors
- Climate Financial Risk Forum (CFRF) (UK)
- Climate Financial Risk Forum (CFRF) Risk Working Group (UK)
- PRI Fixed Income Advisory Committee
- PRI Global Policy Reference Group
- PRI Macroeconomic Risk Advisory Group
- PRI Plastics Investor Working Group
- Quoted Companies Alliance (QCA) Financial Reporting Expert Group (UK)

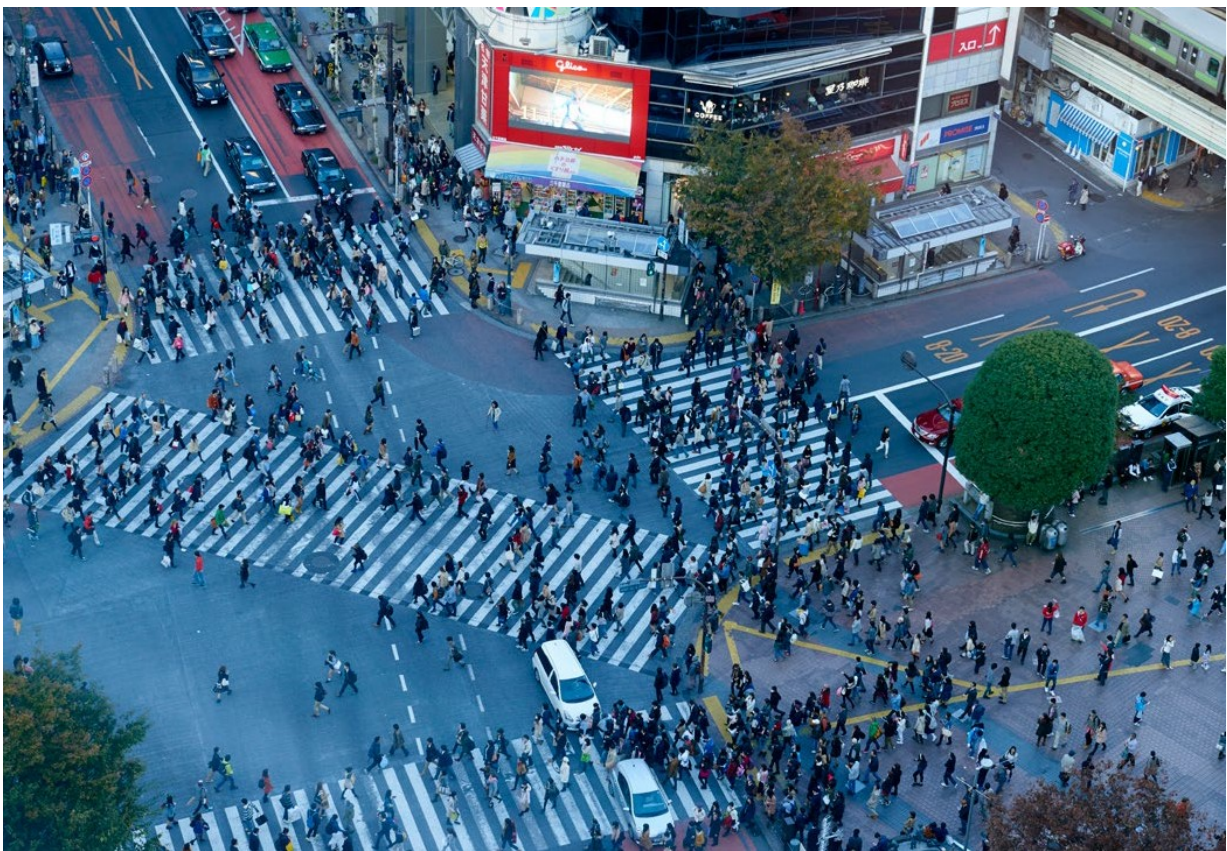


#### **GRESBとインベスコ不動産運用部門（以下、IRE）**

- GRESBは、IREのESGマネジメントおよびポリシーのレポート、スコアリングおよびピアランキングの元になります。
- IREは2019年にGRESBの4つ星の格付けを取得
- GRESBグリーンスターランキングを5年連続で実施
- GRESBは、いくつかのIREファンドを地域および/またはセクターにおけるリーダーとしてランク付けしました。







## 目的

本レポートは、インベスコの運用資産の大部分に触れており、広く共有されている見解に言及しています。一方、一部の運用チームは移行期にあり、本レポートの対象外です。これは、最近インベスコ全体のビジネスに統合された場合やその他の場合も含めます。

## 重要な情報

本書は、情報提供目的として、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（以下、「弊社」と言います）が海外の拠点で発行されたものを翻訳して作成したものであり、法令に基づく開示書類でも特定ファンド等の勧誘資料でもありません。本書にて記載された運用戦略名は、インベスコの責任投資アプローチを説明するために例示目的として掲示するものであり、これらの戦略を推薦、勧誘をする意図はありません。本書は、信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。本書で記載されたランキング並びにレーティング等は、あくまで参考情報であり、将来の運用成果を保証するものでもなく、今後同等のものを確保することを保証するものでもありません。本文で詳述した本書の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性もあります。また、本書は、弊社日本株式運用部のエンゲージメントを説明するために、過去の一時点における投資先企業との対話事例、または評価事例を掲示いたしますが、あくまで過去の一時点における事例に過ぎず、将来も同様の事例を継続する保証はございません。当資料について事前の許可なく複製、引用、転載、転送を行うことを禁じます。

この文書は、特に断りのない限り、インベスコの専門家によって書かれています。本資料に記載されている意見は、現在の市場情勢に基づいており、他の投資家の意見とは異なる可能性があり、変更される可能性があります。本書は目論見書の一部を構成するものではありません。ランキング、格付け、または賞に対するいかなる言及も、将来のパフォーマンス結果に対する保証を提供せず、時間とともに一定ではありません。データはすべて2019年12月31日現在のもので、特に断りのない限りインベスコ社が提供しています。すべての画像は、特に断りのない限り、インベスコから入手したものです。

©2020モーニングスター、株式会社無断転載を禁じます。本明細書に含まれる情報:

(1) モーニングスターおよびまたはそのコンテンツプロバイダの所有権であり、(2) コピーまたは配布することはできず、(3) 参考のためにのみ提供されています。

モーニングスターもそのコンテンツプロバイダも、この情報の使用に起因する損害または損失について一切責任を負いません。アセット・アロケーション・データは、モーニングスターが、インベスコが提供する完全保有データを用いて導出したものです。Interactive Data Managed Solutionsによって電力供給されるモーニングスター・ライセンス・ツールおよびコンテンツ。



運用にはリスクが伴い、場合によっては元本に損失が生じる可能性があります。当資料は特定の銘柄の運用助言あるいは売買推奨のために用意されたものではありません。当社運用商品へのご投資には、各商品等に所定の手数料等（投資信託にご投資される場合には投資信託毎に設定された購入時手数料および運用管理費用等の諸経費、投資一任契約の場合は契約毎に設定される運用報酬、等）をご負担いただく場合があります。

当社運用商品へのご投資には、各商品等に所定の手数料等（投資信託にご投資される場合には投資信託毎に設定された購入時手数料および運用管理費用等の諸経費、投資一任契約の場合は契約毎に設定される運用報酬、等）をご負担いただく場合があります。当社の投資信託の購入時手数料は最大3.85%（税抜3.5%）、運用管理費用は最大年率2.123%（税込）、信託財産留保額は最大0.3%となり、この他にも、保有期間などに応じてご負担いただく費用が発生する場合があります。ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。各商品へご投資された場合、各商品は価格変動を伴う有価証券に投資するため、投資リスク（株価の変動リスク、株価指数先物の価格変動リスク、公社債にかかるリスク、債券先物の価格変動リスク、コモディティにかかるリスク、信用リスク、デフォルト・リスク、流動性リスク、カントリー・リスク、為替変動リスク、中小型株式への投資リスク、デリバティブ（金融派生商品）に関するリスク等）による損失が生じるおそれがあります。ご投資の際には、当該商品等の契約締結前書面、信託約款、商品説明書、目論見書等を必ずご確認ください。投資一任契約に関しては、次の事項にご留意ください。【投資一任契約に係る報酬】投資一任契約に係る報酬などの総計は、現時点で、当戦略の報酬料率を決定していないため、表示することができません。【特定(金銭)信託の管理報酬】当該信託口座の受託銀行である信託銀行に管理報酬をお支払いいただく必要があります。具体的料率については信託銀行にご確認下さい。【組入有価証券の売買時に発生する売買委託手数料等】当該費用については、運用状況や取引量等により変動するものであり、事前に具体的な料率、金額、上限または計算方法等を示すことができません。【費用合計額】上記の費用の合計額については、運用状況などによって変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

## インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第306号

C2020-08-060

